

2021/10/13-2

(オマケの英語教室 flow and flower) 書庫版



緊急事態宣言や蔓延防止措置(条例)等の解除に伴うお客様の動きの変化に合わせて、それに即した従業員の業務フロー(work-flow)の更新案を考えながら歩いていた時、ふと道ばたの小さな白い花に目が止まりました。

「んっ？」

何かを感じたのですが普段なら「んっ？」の正体を追い掛け手その先に進むところ、その時ばかりは業務フローを考えるのに忙しくて脇道にそれることなく考え続け、いつの間にかその「んっ？」を忘れてしまいました。

ところが先ほど、外が雨降りな事もあってお客様が殆どお見えにならず暇を持て余して居たとき突然

「flower って flow に -er が付いたものなの？」

と変なことを思いついてしまいました。

「仕事の流れ」の英訳である work-flow。

「花」を表す flower。

Flower から「-er」を取れば Flow になる。

そこで又例の虫が騒ぎ出して

「flow (流れ) と flower (花) に共通するものが何かある筈。それは何だろう？」

と考え始めました。

そこで自然と思いついたのが我が国の古文。或いは古文同等のもの。

まず flow (流れ) については鴨長明の方丈記に出てくる一節

「行く川の流れは絶えずしてしかも元の水にあらず」

そうして今ひとつ flower (花) に関しては作者が誰かは知りませんが

「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」

という一節。

共通しているのは「(花に見る) 儂さ(はかなさ)」と「(川に見る) 移ろい易さ」

本来ならその二つを更に抽象化して「無常(常なるものは無し)」とも云いたくなりしたが、

それとは又違う様な。

もしこの推論が当たっているとすると時空を超えて洋の東西というのは案外似ている部分もあるのかもしれないあと、ちょっとびっくりしているところで御座います。